

令和2年度 施策評価シート

基本目標	V	区民と区が協働で「すみだ」をつくる
政策	510	コミュニティの輪を広げ、協働によるまちをつくる
施策	513	地域コミュニティのなかで、外国人にとっても暮らしやすい環境をつくる
施策の目標	すべての区民が、異なる文化や生活習慣、価値観等を認めあい、ともに地域の課題解決にも積極的に取り組むなど、外国人にとっても暮らしやすいまちになっています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「通訳・翻訳ボランティア」登録者数（2年に一度更新あり。令和元年度更新）									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	50	50	60	70	80	80	90	90	100	100
実績	67	47	63	43						
指標名										
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標										
実績										

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
外国人住民数は例年増加傾向にあり、令和2年1月現在では約1万3千人と、区民の約4.6%を占めています。また、国籍も様々で、令和2年1月現在では、約90ヶ国の住民がいます。その中で、多言語での対応は難しく、外国人住民が日本語を習得する支援及び外国人にもわかりやすい日本語でコミュニケーションをとる必要があります。	H29	776
	H30	498
	R1	1,386

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	事業対象者(外国人住民)に対して、十分に訴求できていない側面があり、今後広報等の工夫が必要である。

4 今後の施策の運営方針

一次評価	最終評価	施策の戦略的方向性
○		(1) 優先的に資源投入を図る。
		(2) 現状維持とする。
		(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
		(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】		
日本語ボランティア養成講座による、ボランティアの養成だけでなく、区内で新規教室を立ち上げるための「生活密着型日本語ボランティア教室の運営モデル事業」を実施するため。		
【今後の具体的な方針】		
外国人にとって暮らしやすいまちを実現するためには、言語面のサポートが不可欠である。そのため、外国人にも伝わりやすいように工夫した「やさしい日本語」の普及啓発、日本語学習の場で活動する「日本語ボランティア」の育成等を行っている。		

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果 評価対象年度
1	多文化共生事業	1,386	6,117	7,503	12,550	改善・見直し
					12,942	令和元年度
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

令和2年度 事務事業評価シート

施 策	513	地域コミュニティのなかで、外国人にとっても暮らしやすい環境をつくる	部内優先順位
事 業 名	多文化共生事業費		1
目 的	増加する外国人住民に対し、日本語教育等の支援を行い、外国人にとって暮らしやすい環境を創出する。		主管課・係（担当）
			文化芸術振興課 都市交流・国際担当 03-5608-1459
対 象 者	在住外国人		
根拠法令 関連計画			
実施基準	区独自基準	実施方法	直営 人員体制・委託先 2
事業内容	平成30年度まで、墨田区国際化推進クラブと協働で、在住外国人支援に資する事業を実施したが、前年度より、日本語ボランティア養成講座を区直営で実施するなど、多文化共生事業の大幅な見直しがあった。		
経 過	開始年度	平成18年度	終了予定
	平成18年9月 墨田区国際化推進クラブ(SIPC)設立 ⇒区からの補助金を原資として、外国人のための日本文化体験、日本語ボランティア養成講座、すみだまつりへの出展事業等を実施 平成31年3月 墨田区国際化推進クラブ(SIPC)解散 ※ その他、区事業として、通訳・翻訳ボランティア制度を実施		
議会質問 の 状 況	令和元年6月定例会 多文化共生事業の方針について (区長答弁)日本人と外国人が、地域で行われる祭りや盆踊りなどに参加できるよう工夫するなど、双方が交流できるようにしていく。		
そ の 他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等)		

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算現額（事業費）		1,014	915	1,006	669	1,537	3,912
決算額（令和2年度は見込み）		524	808	776	498	1,386	3,912
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		524	808	776	498	1,386	3,912
執行率（%）		51.7%	88.3%	77.1%	74.4%	90.2%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成30年度（決算）			令和元年度（決算）			令和2年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
報償費	講師謝礼等	180	報償費	講師謝礼等	32	報償費	講師謝礼等	176
旅費	会議・事業への参加	2	旅費	会議・事業への参加	7	旅費	会議・事業への参加	19
需用費	JICA派遣者用お土産等	8	需用費	JICA派遣者用お土産等	19	需用費	JICA派遣者用お土産等	151
役務費	郵送料	9	役務費	郵送料	20	役務費	郵送料	21
負担金補助及び賃借料	国際化推進団体への補助金	300	委託料	日本語ボランティア養成講座等	1,309	委託料	日本語ボランティア養成講座等	3,545

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標					単位	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
				目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標						
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	外国人住民数				単位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
15,000		R7	目標	11,500	11,850	12,200	12,550	
			実績	11,530	12,056	12,543	12,942	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	目標	12,950	13,300	13,700	14,150	14,550	15,000	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
外国人にとって暮らしやすい社会が実現すれば、結果として外国人住民数の増につながってくると考えられるため、外国人住民数を活動指標とした。(年3%増見込)								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	国籍の多様化により、多言語での対応は難しくなっている。今後は、在住外国人が日本語を習得するための支援及び、区民に向けて、外国人住民にも伝わるよう工夫した「やさしい日本語」の普及啓発を重点的に取り組む。

課題・問題点
<p>在住外国人がよりよく生活するうえで、日本語の習得が必要不可欠である。しかし、日本語ボランティア教室に訪れる外国人は、区HPやパンフレット等を閲覧・入手できる者とその周りの者に限られる。そのため、区内にある日本語ボランティア教室の存在を、把握していない外国人に対しての周知が今後の課題となる。</p>